令和5年度　第5回守谷市通学区域審議会会議　議事録

1 日 時　令和6年1月 25 日(木) 17:00～19:00

2 場 所　守谷市立中央図書館 視聴覚室

3 出席者

〇委員　(15 名中15名出席)　　以下、敬称略

・越智壽雄(守谷市校長会会長) ※副会長
・中野比呂志(守谷市校長会副会長)
・荒井弘勝(守谷小学校校長)
・奈幡　正(黒内小学校校長)
・中原卓治(郷州小学校校長)
・木下悦郎(松ケ丘小学校校長)
・片岡正美(愛宕中学校校長)
・吉田あゆみ(守谷市 PTA 連絡協議会会長)
・佐藤若菜(守谷市 PTA 連絡協議会副会長)
・永井祐介(守谷小学校 PTA 会長)
・山本広行(松ケ丘小学校 PTA 会長)
・藤井穂高(国立大学法人筑波大学人間学群教授) ※会長
・村山　守(守谷 C 地区まちづくり協議会会長)
・古屋正博(守谷 B 地区まちづくりふれあい会)
・星野陽子(ひがし野まちづくりの会)

〇事務局

・小林教育部長、古橋参事
・学校教育課　前川課長、坂本課長補佐、菊地係長、中北主任、岡野主任
・㈱ちばぎん総合研究所　調査部　大塚

〇傍聴人15名

4 会議内容(発言の主要部分を掲載)

(1)会長あいさつ

・前回の会議では、オール守谷で(黒内小学校を)救おうということで事務局案をもって地域に入りましたが、厳しいお叱りを受けて大幅に見直した案を事務局から提案しています。本日の資料に基づき説明いただいて、提案を確認していた上で議論いただきたいと思いますよろしくお願いいたします。

(2)部長あいさつ

・本日は御多用のところお集まりいただきましてありがとうございます。本日は、黒内小学

校の過大規模解消のため事務局が提示した対策案について、地域の皆様からいただいたご意見を踏まえ、改めて検討し直した対策案をお示しし、委員の皆様にご審議いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

（3）議題

①令和7年度黒内小学校大規模校化対策について

【事務局】

・資料 No.2「令和7年度対策案に関する市民意見等について」、資料 No.3「黒内小学校区再編案（事務局案）」、資料 No.4「今後のスケジュールについて」を説明。

【会長】

・資料№3が最も重要だが、ご質問・ご意見があれば伺いたい。

【委員】（質問）

・3パターン（対象学年：新 1 年生、新1・2 年生、新 1～5 年生）のアンケート結果に当事者である新1年生が含まれていれば問題ないが、新1年生の保護者が反対ということはないか。

【会長】

・その点は重要でご指摘のとおり。就学前のご家庭のご意向が影響するが、そのデータはどれか。反映されているのか。

⇒【事務局】

・本日お配りしたアンケート報告書では、結果は全体の単純集計であるが、クロス集計は行っている。松並青葉地区でお子さんがいる当事者世帯では、スクールバス導入による時限的な通学区域変更案の対象を 1 年生にすることについて 32.8%の賛成、1～2 年生については 8.6%、1～5 年生については18. 3%の賛成となっている。未就学児のいる全世帯では、1年生が移動するパターンは30.5%、1～2年生については8.2%、1～5 年生は 16.8%となっているなど、全体的な傾向とあまり変わらない。

【会長】

・その数字は松並青葉全体ということであり、未就学児だけの家庭と未就学児を含む家庭で、全体の数字とあまり変わらないということだ。

【委員】

・未就学児の保護者の中には、兄弟がいるため変更せずに通えると思っているからではないか。本当に該当者、当事者の方が賛成されているかが疑問。

【会長】

・その点については、アンケートのデータ的には同じ傾向になっている。他にいかが。

【委員】

・資料を拝読し、当該校としては胸が痛む。学校運営にご指摘いただいていることを真摯に受け止めねばならないと感じている。年明けに登校指導をしている際、児童から、なぜ他校に行かねばならないのか、新棟を造ればよいのではという言葉を投げかけられ、返す言葉がなく、心配かけているねということでその場を終わらせるしかなかった。これまでの審議会で、学校の課題について申し上げてきたが、子どもたちの安心や納得、希望がない中で他校に移動することは、教職員皆が望んでいない。一方、現在 1,172 名の児童数で時間割を工夫しながら教育活動を展開しているが、敷地の広さ、余剰教室や休み時間の長さ等、他校と比較して相対的にはゆとりがないという状況がある。さらに、令和6年度は相談学級も含め5学級ほど増える予定で、学習科室2つと生活科室を普通教室にするシミュレーションで考えている。現在の校舎では、教室数は来年度がギリギリであることは事実。通学区域の見直しをする際には、数字合わせだけではなく、特に学校が変わるかもしれないお子さんや保護者の不安にどのように応えるかという心のケアや、教職員の連携・引継ぎ・交流会などソフト面に関する議論と対策をもっと行うべきだったと考えている。当該校として、通学児童や次年度の入学生・保護者の方に過大規模校の課題だけが認識されることは望ましくないと思っている。児童も教員も頑張っており、子どもたちは清掃や昼休み等15分刻みのローテーションをノーチャイムで動いている。本日も、スクールフェスティバルという学校行事があったが、130～140人の保護者が応援に来てくださった。3部制で保護者を体育館に入れ、並行して保護者が教室でレクリエーションや創作活動など提供し、子どもたちが楽しむ、そういう学校であり、それで何とかなっている学校である。子どもたちも教職員も保護者も工夫して頑張っていることは理解いただきたい。これから通学区域の見直しを行うにあたっては、数字の一人歩きで教育活動に対する誤認識がないよう、事務局と学校で連携して情報発信を進めていく必要があると強く思っている。もう1つ、学区の見直しにあたっては、ソフト面、心のケアをどうするか。教職員連携での引継ぎや事前の児童交流など、少しでも児童、保護者の不安が軽減するような具体策をセットにして踏み込む必要がある。変更案を拝見させていただくと、来年 1,300 名になり、その後あまり変わらない数字で3～4年継続する。1,200 人規模の今の状況をみると、正直心配な部分がある。事故発生時の対応、特別教室、理科室の問題、体育館、校庭の利用など、この状態を長く続けない方が子どもたちにとっては良い。時間も広さもゆとりがあることに越したことはない。それをご理解いただくためにも、丁寧に時間をかけて、少しでも安心して選択できる通学区域を、広い視野で丁寧にやっていく必要がある。

【会長】

・客観的にみると、明らかに施設規模を上回る児童数であるが、学校の方できちんとされているので過大規模であることがあまり問題化していない。そのため、保護者からすると、自分たちの地域がなぜ変更しなければならないのかとみえるのかもしれない。あまりにも児童数が多いので、問題になって然るべきな状態だが、それでも黒内小に行きたいという状況である。

・令和7年度1年生からということなので、在校生が移る案はなくなり、その点では子どもたちの心のケアの心配は若干減ったかもしれない。しかし、保護者が現状の黒内小学校

で問題ないと思えば選択する必要はないとみえてしまい、その辺りの説明はご指摘のとおり難しい。学校が頑張れば頑張るほど、選択の必要がないようにみえてしまう。

【委員】

・再編案は色々な地域のご意見をいただいて構成されていると考えると、該当する未就学児のみのデータが必要だと思う。審議会では、数字を精査して出した方が良いのと、地域の方への説明は丁寧にしていただいた方が良い。主要道で通学区域を区切るのは地域の方の文化、思い、経緯、歴史があるため丁寧な説明が必要だった。選択制は不透明な部分があるので、決断できるような材料をきちんと提示する必要がある。併せて、黒内小学校への物理的な支援、プレハブ校舎、駐車場移動、救急車の導入路などライフラインの確保などを同時に行った上で選択制もあります、ということを同時に提案していかないとご納得いただけないと思う。お金もかかるので大変とは思うが、今の黒内の敷地以外を使うか、今の敷地内でどう組み立てるかも含めて、同時にご提案して意見をいただいた方が良いと感じた。

【委員】

・レーベン守谷では、毎年全住民に対してアンケートを実施している。その中で保護者の方から黒内小学校は何とかならないかとの意見があり、市の関係部署に渡して回答いただいた。レーベンでは黒内小学校について心配なさっている親御さんが一定数いるということはお伝えしたい。

【委員】

・今日のアンケートをみても、うまく回していると思っている方もいれば、行事の運営や、子どもの経験値などの点でお叱りの声もいただいている。保護者による学校評価アンケートでは、「黒内小は休み時間の確保に努めていますか」という質問に、肯定的な意見が昨年度に比べ2割増えた。取組みが明らかになり、認識くださった方が増えたのかもしれないが、子どもたちが頑張ったためでもある。現状は、時間的にゆとりがないことは事実である。今年度の運動会は午前600人、午後600人の1日での開催であったが、600 人は大規模校のレベルで、大規模校の運動会を 1 日 2 回行っている状況。兄弟のいる親御さんは1日立ち見の方もいらっしゃる。そう考えると今の敷地、建屋、グランドでは工夫にも限界がある。今年 1 年間で20回近く救急搬送があり、そうした際の導線確保の問題がある。どこかに理科室を建てていただいても職員駐車場もいっぱいで敷地的に限界であり、工夫だけでは補えないこともある。

【委員】（意見）

・審議会の度に申し上げているが個人としては新設校をつくってほしい。黒内小学校は5年後もかなり多い人数であることは変わらない。ニュースによると守谷市の人口は75,000 人になるというようなことも聞いており、5,000 人以上増えるなら学校をつくって損はないと思う。地域の方と話をしていると、この土地に学校建てればいいのにねというような場所も守谷市にはある。私たちには所有者は分からないし、学校教育課だけでは決められない問題なので、一番は市長が学校建設を考えてくれれば良い。アン

ケートにも新設校を求める意見があった。新設校を造るまでの何年かだけという方が具体的なお願いもしやすいと思うのでお願いしたい。

【会長】

・アンケートをみても、新設校についての意見がある。そのような質問はまず出てくるとは思う。複合施設にして学校としての用途後に別の施設として使えるように検討することもできるが、教育委員会のレベルではなく基本計画のレベルだろう。今の推計では明らかに子どもの減少が見込まれる中で、推計が正しいのかという意見はあるが、新たに学校をつくることは教育委員会としても難しいのではないか。

⇒【事務局】

・言及されたのは最近公表された社人研（国立社会保障・人口問題研究所）の推計結果だと思うが、我々も数字をみて驚いている。今回の推計は、TX 開業後の一番人口が伸びている時期の数値を使って計算しているようだ。前回の社人研推計では人口減少が見込まれていた。今回は増える推計だが、信頼すべきかどうかという議論が庁内で起きている。市の人口ビジョンでは推計結果を鵜呑みにせず、きちんとした数字をおさえて推計し、人口を見ていきたいとなっている。

・教育委員会では令和 4 年度から民間コンサルも入れて人口推計を行っているが、（都市計画にない）マンション建設などは考慮していない。その結果、令和8年度から子どもの数は減っていく推計が出ている。そのような中で学校を新設することは、まちづくり全体の問題となるため、企画担当部署と検討が必要。

【会長】

・次回が第6回で答申になる。原案で確認していただかないと次に進めない。他にご意見があれば是非いただきたい。

【委員】

・守谷市の人口は2025年がピークとされており、学校新設は黒内小の方に配慮しなければならないため説明は難しいとは思うが市全体で考えていただきたい。

・地区によっては新1年生がいない地区もあるが、安全対策は提示していかなければならない。例えば、大原地区などは住宅があまりない中で、安全対策などについて今時点でどのようなフォローを考えているかお伺いしたい。

⇒【事務局】

・現時点では大きな反対意見がないという認識でこれからお話を伺いたい地区である。大原、原本町地区はかなり面積が広く、御所ケ丘小の方が近い地区も、黒内小学校が近い地区もある。その点は世帯ごとに丁寧にお話を伺い、区域変更ということになれば（仮称）新守谷駅周辺土地区画整理事業とあわせ、どういった道路利用が一番安全な道になるかということを検討しながら進めていきたい。該当世帯の安全が確保できない限りは進めることはできないと考えている。

【会長】

・資料 3 の①は変更しないといったことになったが、今回、情報が少ないという意見が多かったので丁寧に説明し、ご理解を得るということになると、②と③の人数規模で調整するよりは、④、⑤の部分に注力した方が良いのではと思うが、その点は如何か。

⇒【事務局】

・大原地区については、今後新守谷駅周辺の開発が進むと人数が増加する可能性もあるため、御所ケ丘小への通学が可能で、通学路の安全も確保できると、皆さんの了解が得られれば検討する余地はあると考えている。

【委員】

・意見交換会を開催されるということで、今回感じた最大のポイントは説明不足、情報不足だったと思う。それを踏まえて、十分な説明をいただきたい。具体的には、回覧する場合は3週間～1か月かかる。次の意見交換会を行うにあたっては、場所と日時を確定してなるべく早く周知し来ていただくことが重要。アンケートでも知らなかったという意見もある。毎月10日発行の広報誌で周知することも検討いただきたい。

・次回は意見交換会やアンケートで出された主な意見について回答いただいた方が良い。

【会長】

・④の原案では、2・3・4丁目の方は原則移るという形だったが、選択制を検討する方向なので、松並青葉全体としての不公平感は薄れた。しかし、どの程度の人数が移るかが不透明で、黒内小が限界を超えてしまう可能性もある。このあたりが悩ましい。

・⑤の変更案 B ではスクールバスによって移っても良いと考える方が一定数いるが、どの程度の正確性があるか。その点の説明を十分にすることによって、④の選択制を実現できるという可能性もあるため、④と⑤に対する教育委員会の注力の仕方を考えておかないとならない。

⇒【事務局】

・ご指摘のとおり、選択制にするウィークポイントは、移動していただける方の人数が把握できず、黒内小の過大解決につながらない可能性にある。そのため、現在の黒内小学校に対しても何ができるかということも考えて動きたい。具体的には運動場スペースとして近くの土地の転用ができないかということで、担当部署と検討するなど動き出しはしている。しかし、それだけでは解決できない規模となっているため、保護者の方に納得いただいた上で（通学先を）選択いただけるようにしたい。アンケートなどでも、黒内小学校以外の情報が分からないとの意見を多くいただいているので、その辺りが分かるような情報発信もしていきたい。

【委員】

・広報もりやだけでは配布されない家庭もあるので、その点も考慮したスケジュールで考えていただきたい。例えば、黒内小学校以外の市全体への説明も検討しているのか。

⇒【事務局】
・（過大規模校から他校に入学先を変えることができるという）就学校変更基準の見直しは、市全体に影響する内容だったので、昨年広報に掲載したが、それでも知らなかったという方が多かった。このため、広報で特集を組むなど、皆様の目につく方法を考えていきたい。説明会については、町内会に入られていない方もいらっしゃると思うので、別の方策での周知も検討していきたい。

【委員】
・場合によっては、受入側の保護者も知っておいた方が良い。こういったことも含めて市全体で進めていることを一括で周知した方が、広報しやすいと思って発言した。

【委員】
・受入側の学校では、そんなに多くこられても、今の状況で満足しているのに、というお子さんや保護者や、そもそもそのようなことを全く知らないという方がいると聞いている。移動を決意された家庭もあるのに、受入先の学校が困るから受け入れられないとなると、元も子もない。守谷市全体で周知していく中で、受入先の学校でもアンケートを取るなどの方法で意向を確認する必要があると感じている。

⇒【事務局】
・丁寧に説明していきたい。

【委員】
・以前黒内小に勤務しており、時差登校、日課、グランドの分割、特別教室の分割等などの対策をやってきたので、実情はよくわかっている。隣の守谷小学校に異動して感じるのは、規模、施設的に充実しているということ。受入側の学校の話だが、（過大規模校から学校を変更できることについての周知が）就学時健康診断通知の頃だったので、その際には情報不足で判断できなかったからか、守谷小に変更する児童は0人だった。今は地域に対策案を示し始めた結果、ご理解を得ることができ、守谷小学校に目を向けていただく保護者が出始めている状況。1学級35人なので、あと数人くると守谷小も学級増となり、この時期にきて3―4クラスになるか不透明だが、そのような話があった場合には、学校教育課と十分に連携を図りつつ受入れを断ったことはなく、黒内小学校の実情を踏まえた対応を考えている。守谷市は学校改革も積極的に進めてきており、この改革の推進が出来たのは守谷市の教育資源があったからといえる。GIGAスクールの推進、校内環境の整備ができたのは守谷市の教育環境が整っているからである。前回の審議会でも申し上げたが、その環境が市内全校に整っている。また、心のケアに関しては本当に大切なことで、クラス替えでも子どもへの影響が大きいくらいなので、十分対応していく必要がある。アンケートも読ませていただいて心苦しくなった。ただ、変更案の実施が令和 7 年度からと、急に変わる点についてのとまどいと読みとれる部分もある。地域の方から意見があがることは十分わかるが、通学区域について真剣に議論する場があるので、長期的な形で継続して、守谷市の小学校の適正規模について本気で考えていきたい。地域の方の気持ち、学校文化、子どもたちの心のケアなどが一致して

いくような中で、方向性が示唆できればすごい進歩であると感じている。

【会長】

・本来であれば数年前から検討すべきということでお叱りも受けており、本審議会でも困っている部分はある。ほか、いかがか。

【委員】

・選択制というご要望が非常に多く出ている。各家庭、各子どもの要望を聞いていくことが一番不満も少なく、要望を通すには一番良いとは思う。ただ、移動人数が不透明で、これから先も続けていくには未知数で分からない部分である。黒内小の保護者やお子さんからしたら、他の学校がわからないというのも大きい。校長先生もそれぞれカラーが違う。学校が変わったらどうか自分の子どもに聞いたところ、怖い先生がいなければ良いし、学校に入って新しい友達がいれば大丈夫という返事であった。子どもたちは環境に適応していければ何とかなるが、保護者にしてみれば距離が遠くなれば大変と思ってしまうので、各学校の良い点や情報発信をしっかり行っていっていただきたい。私も、松ケ丘小が一番だと言いたいが、他の学校を見ていないのでわからない。黒内小ではこうだけど、他の学校ではこうだという魅力をアピールする場をつくっていただきたい。

【委員】

・②について、（仮称）新守谷駅周辺土地区画整理事業の規模でどのくらいの人口、児童の増加が見込まれ、御所ケ丘小がどのくらいの規模になると見込んでいるのか。

⇒【事務局】

・（仮称）新守谷駅周辺土地区画整理事業は、産業系の土地利用がメインで、計画人口は100名程度と聞いている。そのため、児童が急増して御所ケ丘小学校がパンクするようなことはないはずである。

【会長】

・選択制で数字が読めない状況であるが、今後のスケジュールをみると９月には就学校決定通知ということになるので、この ６ か月間にどのように動くかになってくる。どのように動くかについては検討中であるか。

⇒【事務局】

・2月には地域に入り、内容を3月の審議会で説明させていただき、３ 月上旬の答申に間に合うよう意見を吸い上げていく。

【会長】

・原案を示した後に具体的に保護者に説明していくことになる。保護者の側からすると具体的に選択する必要がある中で、具体的にどのように説明していくかについて考えていただきたい。

⇒【事務局】
・詳細なスケジュールは決まっていないが、答申をいただいた後、更に細かな部分も説明していきたい。

【委員】
・松並青葉に自治会が3つあるため、まずは自治会長に本日の内容も含めてご理解をいただく必要がある。早く住民に安心していただくことが一番の希望。そのためには、受け入れていただく側も大変とは思うが、校長先生など児童のことが良く分かっている方から、とにかく分からないことがないよう説明できるような形でご準備いただきたい。その上で、選択制の重要性等を検討いただきたい。

【会長】
・ほか、いかがか。

【委員】
・私の気持ちになりますが、学校全体の保護者への周知をして欲しいと思っている。なぜかというと、一番辛いのは子どもたちであり、移動される世帯も勿論辛いが、残る側もお別れは辛い。保護者の意識としても、自分が該当しないから関係ないとは思ってほしくない。少なくとも自分の子どもは悲しい思いをする。会長になってから、黒内小の子は皆自分の子という感覚でやっている。一部だけの問題ではなく、学校全体の課題であることを保護者全体に伝えてもらいたい。

【会長】
・ご心配されているのは学年の途中で移る場合だと思うが、本日の原案では令和7年度の1年生からなので、その点は従来案よりはだいぶ軽減されている。
・学校全体への周知はどのように行う予定であるか。

⇒【事務局】
・検討中であるが、黒内小の保護者に対するアンケートも 3 回行っているので、方針内容の説明責任があると思っている。保護者の人数も多いため、周知方法は PTA 会長と相談させていただきたい。

【委員】
・令和7年度の1年生からということだが、今までの対策案についての説明を受けた地域では多くの方が驚いていると思う。本日の案は、選択制ということで、黒内小に在校生が残れるということが一番大きな変更点。現在、地域の方は不安を抱いていると思うので、選択制の方針を伝えて安心していただきたい。説明が不足している不信感を抱かれてしまうと思うため、早急に安心してもらいたい。また、黒内小学校校舎の増設などのケアについてや、バスの安全性なども固めた上で、早急に説明いただきたい。

【委員】(質問)

・選択制になった場合、希望者少人数になってもバスが動く前提でいるのか。対象者にアンケートを取っていただいた方が良い。また、暫定的に選択制をとって将来の通学区域の変更に繋げていくのか、そのまま選択制を続けていくのか、今後どうお考えかについて伺いたい。

⇒【事務局】

・選択制を継続するかについては今後決定したい。実施してみて、どの程度の希望者が出るのか、バスを出す必要があるかないか、その点について早めに意向確認をして、確認しなくてはならない。いつまで継続するかについては、実績を積むことによって、継続すべきかどうかということが出てくると思うので、数字等を見ながら判断していきたい。その点は検討段階であるということをご理解いただきたい。

【会長】

・現状では懸念はあるが、アンケートをみると選択制を続けていくしかないのではないか。ある地域だけの通学区域変更は、アンケートからは実現の可能性がなさそうな結果である。通学区域は変更した方が確実に子どもたちは減るが、その選択肢はないのが現状。選択制による移動人数がいつまでにどの程度固まるか、そのためにどのように説明していくかということが勝負となる。バスを出すほどではないという人数となった場合は、1,400 人台も見えてしまう数字となり、本当に学校がもたない。その点は、蓋を開けてみなければわからない。そうならないように必要な情報を伝えていく必要がある。

⇒【事務局】

・(議論している)選択制には2つある。全学区に対しては、特定地域選択制ではなく、令和 6 年度から行われる就学校変更基準の見直し、これは過大規模校から申し立てにより他の学校に変更できるというものだが、こちらを各保護者に周知し、学校の情報を PR することで通学区域の変更を検討していただく形で考えている。ただし、松並青葉地区は北園交差点の混雑が関係してくるため、スクールバスを出して郷州小か御所ケ丘小を選択いただけるようにしていきたい。このため、松並青葉の皆さんには、どれだけご理解いただけるかで黒内小の児童数がどの程度になるのか、北園交差点の混雑がどの程度改善されるのか、ということを踏まえて説明したい。スクールバス運行の継続期間については、実際にスクールバスを利用者される方の意見を聞きながら検討していくこととなる。ただし、一度スクールバスで移動したお子さんについて、途中でバスを廃止することだけはしないよう対応していきたい。

【委員】

・今後は、スケジュールにもあるが、守谷市立小中学校適正規模・適正配置方針は、市全体のことだと認識しているが、過大規模校もあれば、1クラスしかない学校もあるというのが現状だと思う。その点も踏まえて、市として全体最適を十分に検討しなければならない時期に来ている。良い時期でもあるので皆さんと検討させていただきたい。

【会長】
・基本的にはこの案でいって、答申に至るまでに松並青葉や他の地域に入ることになる。その間のそれぞれの説明会の様子もこの審議会の委員の方にお知らせいただいて、少しずつ答申案をつくっていくことになる。次回は大きな変更はできないため、他にご懸念があれば教育委員会で検討いただいた方が良いが如何か。

【委員】
・会長がご指摘のとおり、選択制ではどの学校がどの程度の規模になるかが分からないが、それでも答申としては問題ないのか。

⇒【事務局】
・答申の内容は様々なものがあり、通学区域を明確に記載するものもあれば、個々の地区について選択制で市民の意見を反映して対応するなどと記載する答申もある。

【会長】
・内容として資料№3を踏まえた答申になる。通学区域を明示はないということになる。

【委員】
・黒内小学校の当該地域以外でも、バスを出してくれるなら変更したい意向のある家庭はないのか。黒内小学校区域全体で説明があっても良いのではないか。今回のアンケートは該当地域ありきのアンケートであったが、今後の検討材料として、ご自身の地域でどう思われるかという意見を把握しても良いのではないかと思った。

【会長】
・次の段階ということか。承知した。

【委員】
・根本的な話となってしまうが、スクールバスの確保は本当に可能なのか。何台出すのかを決まっていない中、市内のバスも減便となるような状況であるが、バスの確保は大丈夫なのか。

⇒【事務局】
・スクールバスを出すには予算を確保しなければならないが、議会に丁寧に説明していく。現実的なバスの確保については事業者に確認し、現状の感触ではバスを確保できる見込みである。

【会長】
・数がある程度読めないと契約もできない。その点でも数の把握を急いだ方が良い。

【会長】
・その他、ご意見等なければこれで終了する。

5 閉会

以　上

議事録署名人

永井　祐介
山本広行